



会員企業をたずねる

女性の力、女性の声

このコーナーは、会員企業をたずね、物流業界で働く女性社員に業務内容や、職場の取り組み、個人の抱負などを語ってもらうコーナーです。



第37回

日本梱包運輸倉庫株式会社

輸出入営業所

上田 梨紗さん

PROFILE

2019年入社。三重県鈴鹿地区に位置する複数の拠点・倉庫で、1年間現地研修を経験。2020年、鈴鹿梱包センター営業所に本配属となり、二輪車のパーツセンター業務に従事。2022年6月から海外トレーニー制度（海外研修）でタイの拠点で研修を受ける。2023年6月、帰国し現職に就く。神奈川県出身。趣味は旅行。「学生のときからお金をためては旅行に出かけました。東南アジア、中でもベトナムがお気に入りです！」

海外で働くことを目指して

——御社に入社を決めた志望動機を教えてください。

以前から海外に興味を持っていたため、大学でも英語を専攻し、いずれは海外で働きたいと考えていました。また、就職活動を進める中で、派手な業界よりも堅実な業界の方が自分の性格に合っていると思うようになり、社会インフラとして重要な物流会社であり、海外に現地法人を持つ当社に興味を持ちました。

——入社後の経歴を教えてください。

新入社員は、最初の1年間、研修として現場に配属されます。私は三重県の鈴鹿地区にある拠点や倉庫で、自動車・自動二輪車の完成品やパーツの保管・配送業務等を経験しました。本配属も鈴鹿梱包センター営業所で、大手自動二輪車メーカーのパーツセンター業務に携わりました。

——入社4年目に海外研修へ行かれたそうですね。

当社には、入社4年以上の社員を対象に、グローバルな感覚と視野を持ち合わせた人材の育成を目的とした海外トレーニー制度があり、研修生は、1年間、当社の海外現地法人で現地の言語や物流を学ぶことができます。海外駐在への道の第一歩ともいえる海外トレーニー制度は、当社を志望した

理由の一つでもあったので、少しでも早く経験したいと思い、4年目を迎えてすぐに立候補しました。

——研修中はどのように過ごされましたか。

1年間でタイ国内の拠点を6カ所回りました。2カ月ごとに研修先が変わるため、慣れた頃に異動しなくてはなりませんでした。その分経験できたことも多かったと思います。また、現地スタッフの皆さんの共通言語はタイ語になるため、赴任当初には語学学校にも通わせてもらいました。仕事だけでなく、現地スタッフとの交流、現地の文化・習慣の習得など、得るものは大きかったです。

海外にかかわる仕事にやりがい

——現在の業務について教えてください。

研修が終わり、帰国した今年6月から、輸出入営業所で自動車関連メーカー等のフォワーディング業務を担当しています。輸出入の仕事は、たった一つのミスがその後の工程すべてに影響を及ぼしてしまうため、段取りにミスがあってはいけないことを念頭に業務にあたっています。ミスを防止するためにも、正確な情報収集および発信を心がけていますが、まだ着任して間もないため、習得しなければいけないこともたくさんあります。周囲の皆さんに助けていただきながら学んでいるところです。

——上田さんにとって仕事のやりがいとはどんなことですか。

もともと海外に関係する仕事を志し入社していますので、海外研修、そして現在の業務と、海外に直接かかわれる業務に携わっていることにやりがいを感じています。

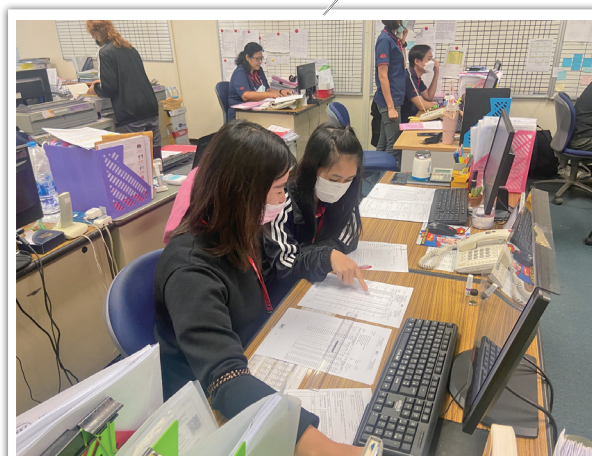
——現在の目標を教えてください。

輸出入業務のエキスパートを目指し、通関士の資格を取りたいと思っています。来年度の試験に照準を合わせ、勉強を始めました。

——将来の展望をお聞かせください。

当営業所の所長は海外トレーニーを経験された女性の方なのですが、所長代理として5年間の海外駐在を経験されています。数百人いる現地スタッフをまとめるために、業務知識はもとより、コミュニケーション能力、現地の文化や習慣への理解など、さまざまなスキルが求められる駐在員を5年間も務めたこともすごいと思いますし、私たち女性社員にとってロールモデル的存在であり、大変尊敬しています。私も所長を目標にしながら、海外駐在、管理職と、ステップアップしていきたいと考えています。

——ありがとうございました。



海外研修の様子



海外研修にて、貴重な財産となった現地スタッフとの交流



プライベートでも海外旅行が大好き！

会社概要

日本梱包運輸倉庫株式会社

本社住所：東京都中央区明石町6-17

創業：1953年8月27日

設立：2015年5月25日

代表者：代表取締役社長 大岡 誠司

資本金：5億円

社員数：4,401名（2023年3月期）

国内拠点：90カ所（2023年3月現在）

【事業概要】

日本梱包運輸倉庫は、1953年に日本梱包運搬社として創業。二輪車の梱包事業から始まり、四輪車を含む自動車物流を主軸として、倉庫、運送、通関、テスト事業等を拡大。1968年に現在の日本梱包運輸倉庫に社名変更。2015年には持株会社体制に移行し、社名を「ニッコンホールディングス株式会社」とする。日本梱包運輸倉庫は新生の事業会社として事業を継承。「地球的視野に立ちビジネスロジスティクスを介し、社会の繁栄に貢献する」というグループ理念のもと、国内外にグループ会社70社を超える強固なネットワークを構築し、総合一貫物流サービスを提供している。

